

社会科学習指導案

日 時：平成18年9月27日（水）

生 徒：黒松内町立白井川中学校2年生
（男子 2名）

授業者： 落合 顕治

1. 題材名

第6章 二度の世界大戦と日本

第2節 世界恐慌と日本の中国戦略 ～『世界恐慌とブロック経済』

2. 単元・本時の題材について

第6章は3節から構成されており、主軸は、2回にわたる世界大戦であるが、

1節は、第一次世界大戦の様相と日本の立場、それらの対するアジア諸国の民族、独立運動の様相のまとめりである。

2節は、日本、世界の資本主義的経済システムが恐慌をきたし、その解決が図れないままファシズム勢力の台頭を許す。日本では、恐慌の解決を中国大陸侵略に求め、走った。

本時はアメリカから始まった「恐慌」のあらましや、それが国内はもちろん、世界にあたえた影響、各国の対応について学習する。

3節は、ファシズム諸国による侵略戦争とそれを阻止する勢力の2度目の世界大戦争の内容のまとめりである。

3. 生徒の実態

覚えることが多いなどの理由で、2名とも社会科は苦手なほうである。しかし、視聴覚教材を活用し、導入の工夫をしたり、教科書には出てこない裏話などを補足すると、興味を示し、話にのってくる。

歴史は流れをつかむことが内容理解に影響を持つ。そこで、学習内容が単なる暗記ものとならないように、今までの歴史の流れと結びつけながら、本時のことが今後どのように展開されるのか、流れを意識させ、学習を行い理解をより確実にさせていきたい。

4. 本校研究とのつながり

仮説1

視聴覚資料を提示することで、本時の導入や課題に興味・関心を持って取り組むことができる。

仮説3

今後の歴史の流れを推測したり、教師が適切な支援をすることにより、学習の成果を確かめ、今後の学習の展望をひらくことができる。

5. 単元の目標

- 第一次世界大戦前後の国際情勢を背景に、日本の国民の政治的自覚の高まりや対外関係を理解する。
- 昭和初期から第二次世界大戦集結までの日本の政治・経済・外交の動きなどを、東アジア諸国との関係や欧米諸国の動きに着目させ、経済の混乱から社会問題、軍部の台頭、戦争の勃発から敗戦までの経過を理解させる。

6. 単元計画と評価規準

時	○学習目標 ☆学習内容	評価規準
1 (本時)	<p>第2節 【世界恐慌とブロック経済】</p> <p>○世界恐慌の内容について理解する。</p> <p>☆世界恐慌が起こった原因を教科書で調べる。</p> <p>☆失業者の増大や、生産量の減退を資料から探し、確認する。</p> <p>☆ソ連、イギリス、フランスはどのように対処したか、教科書で調べる。</p> <p>☆アメリカはニューディール政策をとるが、その内容を教科書や資料集で調べ、国が介入した今までにない新政策であったことを理解する。</p> <p>☆恐慌が日本にもたらす影響について考える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・世界恐慌の概要と、それに対する欧米諸国の対応について理解することができる。(知識・理解) ・恐慌が日本にもたらす影響について考え、自分なりの予想を立てることができる。(思考・判断)
2	<p>【欧米の情勢と日本】</p> <p>○世界恐慌は、イタリア、ドイツ、日本にどのような影響を与えたのでしょうか。</p> <p>☆世界恐慌のあおりを受けたドイツ、イタリアの状況を教科書で調べる。</p> <p>☆行き詰まる日本の状況について教科書や資料集で調べる。</p> <p>☆日本経済の回復について教科書から理解し、財閥の成長が今後どのように展開していくのか考える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・世界恐慌が与えた影響について、資料をもとに、意欲的に調べることができる。(関心・意欲・態度) ・政府と軍部の保護による重化学工業の発展は、今後どのように展開するのか自分なりの予想を立てることができる。(思考・判断)
	<p>【日本の中国侵略】</p> <p>○満州事変、五・一五事件、二・二六事件はなぜ起こったのか理解する。</p>	

3	<p>☆満州事変の大まかな内容について教科書から理解し、経過について資料集で調べ、恐慌打開の方策であったことを理解する。</p> <p>☆「満州は日本の生命線である。」という言葉の意味を考える。</p> <p>☆五・一五事件、二・二六事件の大まかな内容について教科書から理解し、経過について資料集で調べ、軍部の勢力が強大になりすぎ、戦争への道に進んでいくことを理解する。</p>	<p>・満州事変の大まかな内容について教科書や資料集を使って調べ、ノートにまとめることができる。(資料活用能力)</p> <p>・「満州は日本の生命線である。」という言葉の意味について、教科書の記述などをもとに、積極的に考えることができる。(関心・意欲・態度)</p>
4	<p>【日中全面戦争】</p> <p>○戦争の拡大は、中国、朝鮮や日本の国民を、どのように巻き込んでいったのか理解する。</p> <p>☆日中戦争はなぜおこったのか、教科書から調べる。</p> <p>☆日中戦争が始まると、中国国内では抗日組織が結成されたことを教科書で探す。</p> <p>☆国家総動員法が成立し、日本国民や植民地までもが戦争に協力し、戦時体制に組み込まれていたことを理解する。</p>	<p>・戦争の経過について、南京事件も含め資料を使って調べ理解する。(知識・理解)</p> <p>・植民地地域の人々の当時の生活の実態について、資料から調べ、ノートにまとめることができる。(資料活用能力)</p>

7. 本時の展開 (1 / 4)

(1) 本時の目標

- ・世界恐慌の概要と、それに対する欧米諸国の対応について理解する。(知識・理解)
- ・世界恐慌が日本やドイツなどにどのような影響を与えたか、推測し理由を考えることができる。(思考・判断)

(2) 本時の指導計画

過程	生徒の活動	教師の活動	留意点
導入	<p>○プリントについて英語の内容を訳す。</p> <p>○第1次世界大戦後、好景気であった。</p> <p>世界恐慌がおこった。</p>	<p>○プリントを見せ、「ここに書かれた英語の内容を訳してみよう。」</p> <p>○以前のアメリカの様子について復習。</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>プリントのようになったのはなぜだろう？</p>	<p>●プリント(1)の用意</p> <p>★仮説1</p>

展	<p style="border: 1px solid black; padding: 5px;">世界恐慌はなぜおこり、欧米諸国はどのように対応したのだろう。</p> <p>○株価の暴落、銀行の倒産、農産物の価格急落</p>	<p>○世界恐慌はなぜおこったのか、教科書から探してみよう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・株式についての補足 ・恐慌以前のアメリカの工業生産グラフを提示。●プリント(2) ・資料集 P 1 3 8
	開	<p>○社会主義国だったため、恐慌の被害を受けなかった。</p> <p>○自国と関係の深い国々でのみ経済関係を結んだ。</p> <p>○ブロック経済</p> <p>○失業者救済の何かを行った。</p> <p>○公共事業をおこし、失業者を助けた。</p> <p>○ニューディール政策</p>	<p>○旧ソ連はどんな様子だったのだろう？</p> <p>○イギリスやフランスはどのような対応をとったのだろう、教科書から探してみよう。</p> <p>○これを何というのか？</p> <p>○世界恐慌の発生もとであるアメリカはどのような対応をとったのだろう？</p> <p>○どんなことを行ったか、教科書から探してみよう。</p> <p>○この政策の名前を何というのか？</p>
開		<p style="border: 1px solid black; padding: 5px;">以前アメリカのような自由な経済活動だけではこの恐慌は乗り切れないことから、国を挙げて失業者救済のためニューディール政策を行い、景気回復に取り組んだんだ。</p>	
	まとめ	<p>○受ける。「世界」恐慌だから。</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 5px;">そう、世界に広がり、日本も影響を受ける。そうやって歴史の流れをつかむことがこれからの歴史の学習でも大切なことなんだ。</p>	<p>○この後、日本もこの影響を受けるだろうか？</p>